

令和2年度第1回尾張旭市地域づくり懇談会 会議要旨

- 1 開催日時
令和2年10月28日（水）午前9時から午前10時30分まで
- 2 開催場所
尾張旭市役所2階 203会議室
- 3 出席者
高橋 眞知子（名古屋経営短期大学）、大川 正喜（尾張旭市商工会）、
酒向 清治（瀬戸信用金庫）、横山 史佳（尾張旭市観光協会）
- 4 欠席者
水野 恵介（あいち尾東農業協同組合）
- 5 傍聴者数
0名
- 6 出席した市職員
企画課長 山下 昭彦、企画課長補佐 齋場 智充、企画課主事 木船 波留歌、
産業課にぎわい交流係長 伊藤 公一
- 7 議題
(1) 第一期総合戦略の評価検証について
(2) 第二期総合戦略の策定方法について
- 8 会議の要旨

1 開会
<ul style="list-style-type: none">・ 新型コロナウイルス感染症予防のお願い・ 資料の確認
2 議題
(1) 第一期総合戦略の評価検証
事務局から資料に基づき説明。構成員からの主な意見は以下のとおり。 <ul style="list-style-type: none">・ 指標「日常生活に必要な商品を市内で買う市民の割合」の「日常生活に必要な商品」に「電化製品」が含まれているが、「電化製品」は耐久消費財であるため、他の非耐久消費財と分けることで、違う結果になると考えられる。今後指標を見直す際は、指標を精査されるとよい。・ 「日常生活に必要な商品を市内で買う市民の割合」の結果が3割程度というのは、市内にある店舗数から考えても少ない印象がある。 ⇒（市）数値をどのように計上しているか、改めて確認したい。

- 人口規模等が同程度の他自治体と、指標項目を比較してみる方法も考えられるのではないかな。
- 基本目標の達成度と、これを構成する施策の達成度に乖離が見られる分野があるため、第二期総合戦略策定には留意されることが望ましい。
- 8割の市民が「わがまちに「愛着」を感じる」としているのに対し、「市民同士のふれあいの場・機会への参加の割合」が4割程度というのはもったいないように感じる。行政がイベント等を実施する際は、担当部署だけでなく横の連携を強くして広報することで、よい効果生まれるのではないかな。
- 指標「観光入込客数」の評価に森林公園利用者の記載があるが、森林公園の利用者はどの程度数値に影響があるのか。
⇒ (市) この指標の数値は、森林公園（ゴルフ場含む）の利用者数及び市内主要イベントの参加者数を計上しているが、数値の大部分は森林公園の利用者数となっている。
- 地域特産品の売り上げは、毎年同程度で推移しているが、植樹祭の開催や新型コロナウイルス感染症などといった外的要因の影響を受けている。

(2) 第二期総合戦略の策定方法について

事務局から資料に基づき説明。構成員からの主な意見は以下のとおり。

- 第二期総合戦略策定にあたり、交付金を想定している分野はあるか。
⇒ (市) 現時点ではないが、地域の活性化事業を実施する際に、対応し得る内容としたいと考えている。
- 市に「事業承継」を相談する窓口はあるか。行政が民間との橋渡しになることで、つながりが生まれることが考えられないか。
⇒ (市) 現時点でそのような窓口は設けていない。まずは、市内事業者の現状把握から始めていきたいと考えている。
- 名古屋市に隣接する地域であるという地理的な点を生かし、休耕田の活用等も考えられるとよい。
- 「棒の手」の5流派が一堂に会するイベントを開催すれば、多くの市民が参加するのではないかな。

⇒（市）市民祭で5年に1度、5流派が集結するイベントを開催している。

- ・ コロナ禍で自転車の利用者が増加しており、まちなかでもロードバイクをよく見かけるようになった。維摩池の芝生部分などを自転車運転者の休憩場所として活用することで、にぎわいづくりにつながるのではないかと思う。

3 その他

- ・ 事務局から、次回懇談会等について説明

4 閉会